

3学年における「数学的活動」

児童が2学年までの算数の学習経験に基づき、数学的活動に意欲的に取り組み、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を高め、算数に関わりをもち、学ぶことの楽しさやよさを実感することを重視する。

★印の数学的活動は、小学校学習指導要領解説算数編の3学年の目標及び内容に詳しく解説されている。

ア 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わる活動

- ・2学年までの学習経験を生かしながら、数量や図形に進んで関わり、算数の学習を楽しみながら主体的に取り組めるようにすることが大切である。
- ・これまでの生活や学習での経験が3学年の算数の学習につながっていることが実感できるよう、事象を丁寧に観察したり、具体物を操作したりしながら数量や図形に関わる活動をする。

○<★円との出会い>身の回りの形を観察したり操作したりして、丸い形(円)に関心をもち特徴を調べる活動。

○<いろいろな三角形>身の回りの形を観察したり操作したりして、二等辺三角形や正三角形に関心をもち特徴を調べる活動。

イ 日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動

- ・日常生活の中から見いだした問題を、これまでの学習で使用してきた具体物、図、数、式などによって解決したり、その結果を確かめたりする活動を経験させる。
- ・日常生活におけるできごとを算数と結び付けて考えたり、処理したりする活動を通して、算数を学ぶよさを実感できるようにすることが大切である。

○<★わり算の余りの意味>問題をわり算で解決した結果、余りの出た場合どのように解釈すればよいか考える活動。

○<数の大きさ比べ>小数や分数の使われている場面を探し、図や数直線などを用いて表し、大小を比較し、結果が正しいか確かめる活動。

○<□を使った式>生活場面を題材にした文章題を□を使った式に表し、解決し、式と答えが正しいか確かめる活動。

ウ 算数の学習場面から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動

- ・算数の学習場面から見いだした算数の問題について、事象を観察するとともに既習事項との関連を意識させるなどして、問題解決の入口を丁寧に扱うことが大切である。
- ・これまでの学習で使用してきた具体物、図、式などを活用して問題を解決したり、その結果を確かめたりする活動を経験させ、自ら算数を学び続ける楽しさを実感できるようにすることが大切である。

○<★重さの比べ方>身の回りの量の特徴(物の重さ)に着目し、数値化して重さを比べたり表したりする活動を通して、測定の意味の理解を深める活動。

○<単位の関係>長さ、かさ、重さのそれぞれの単位の間関係を調べ、それが正しいことを確かめる活動。

○<計算や答えの確かめ>計算の結果や、図、数、式などを用いて問題解決した過程や答えを確かめる活動。

エ 問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動

- ・これまでの学習で使用してきた具体物、図、数、式などによって、自ら問題解決の過程や結果を分かりやすく表現し伝え合うことを目指している。
- ・思考した過程や結果などを伝え合う機会を設け、対話的に伝え合い、互いの考えをよりよいものにしたり、自分では気付かなかった新たなことを見いだしたりする機会が生まれる経験をさせる。
- ・計算の方法や量の測定方法、図形の性質の理解など形式的な手続きの理解には、具体物、図、数、式などを用いて可視化することが有効で、他者との対話的な学びを確かにしていくことにもつながる。

○<★目的に応じた資料を集め棒グラフに表す>自分たちの住む町の交通量など、集めたデータを分類整理し、表やグラフに表して、考察し、伝え合う活動。

○<計算の意味や計算の仕方>整数、小数、分数の計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図などを用いて考え、表現し、伝え合う活動。

○<二等辺三角形の作図>二等辺三角形や正三角形を、定規とコンパスで作図する仕方を考え、説明し、伝え合う活動。

1. かけ算

★実施時期：4月中旬～下旬

★指導時間数：9時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(3)乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ)乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

(ウ)乗法に関して成り立つ性質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(3)については、乗数又は被乗数が0の場合の計算についても取り扱うものとする。(3)のアの(ウ)については、交換法則、結合法則、分配法則を取り扱うものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・乗数や被乗数が10や0のかけ算の意味、立式や計算の仕方を理解し計算ができ、かけ算九九の表を作り観察する活動を通してかけ算のきまり(乗数が1増える(減る)と積は被乗数だけ増える(減る)、交換法則、結合法則、分配法則)を理解することができる。
- ・計算のきまりを見つけ、それを活用して計算の仕方を考えたり、計算を工夫したりする力を身に付ける。
- ・かけ算のきまりに関心をもち、きまりを見つけ、計算の学習や工夫に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
かけ算のきまり	・かけ算のきまり(かける数と答えの関係、交換法則、分配法則)が分かり、それを使って計算できる。(知識・技能) ・10のあるかけ算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・かけ算九九の表を作ったり、観察したりして、かけ算のきまりを見つけ、説明できる。	・10や0のあるかけ算を生活や学習の中で生かそうしたり、かけ算のきまりに関心をもち、進んで活用しようとしている。
0のかけ算	・0のあるかけ算の意味、立式、計算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、0のかけ算の式や計算の仕方を考え、説明できる。	
かける数とかけられる数	・ $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の $\square$ にあてはまる数を求めることができる。(知識・技能)	・ $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の $\square$ にあてはまる数を九九を使って求められることを考えることができる。	

2. 時こくと時間のもともめ方

★実施時期：4月下旬

★指導時間数：4時間

【学習指導要領】

【C 測定】

(2)時刻と時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)秒について知ること。

(イ)日常生活に必要な時刻や時間を求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・時間の概念についての理解を深め、時刻や時間を計算で求められ、時間の単位「秒」と単位の関係が理解できる。
- ・時間の単位に目を付け、時刻や時間の求め方を考え、それを生活や学習に生かす力を身に付ける。
- ・時刻や時間の計算による求め方を生活や学習に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
時 こ く と 時 間 の も と め 方	・計算による時刻や時間の求め方が分かり、求めることができる。(知識・技能)	・時刻や時間の求め方を考え、計算でき、説明できる。	・時刻や時間の計算による求め方を考え、単位(秒)について関心を持ち生活や学習に生かそうとしている。
短 い 時 間 の 単 位	・単位(秒)について知り、時刻や時間の表し方や単位の関係が分かり、秒などを使って時刻や時間を表すことができる。(知識・技能)	・時間の単位(秒、分、時間)の関係を調べ、捉え、説明できる。	

3. わり算

★実施時期：5月上旬～中旬

★指導時間数：9時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(4)除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

(エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

・わり算の意味(包含除、等分除、倍の計算)と立式、計算の仕方を理解するとともに、被乗が0、除数が1の場合わり算の仕方を理解し、計算できる。

・わり算の意味や計算の仕方を考え、計算に関して成り立つ性質を見つけ、その性質を活用して計算の工夫や確かめをする力を身に付ける。

・わり算に関心をもち、既習のかけ算九九を基にして、計算の仕方を考え、生活や学習に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1人分の数をもとめる計算	・わり算(等分除)の意味と式の表し方、除数と商が1位数の計算の仕方が分かり、計算ができる。(知識・技能) ・「幾つ分」を求める場合(包含除)も、「1つ分」を求める場合(等分除)も、わり算として理解できる。(知識)	・具体物や図を操作する活動を通して、わり算の計算の仕方を考え、計算し、説明できる。	・わり算に関心をもち、学習に進んで取り組み、生活や学習の中で活用しようとしている。
何人に分けられるかをもとめる計算	・わり算(包含除)の意味と式の表し方、除数と商が1位数の計算の仕方が分かり、計算ができる。(知識・技能)	・具体物や図を操作する活動を通して、わり算の計算の仕方を考え、計算し、説明できる。	
0や1のわり算	・0や1のわり算の意味や式の表し方、計算の仕方が分かり、計算ができる。(知識・技能)	・前時までのわり算を基にして、0や1のわり算の式や計算の仕方を考え、計算し、説明できる。	

4. たし算とひき算の筆算

★実施時期:5月下旬～6月上旬

★指導時間数:8時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

(イ)加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、計算の見積もりについても触れるものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・3位数や4位数のたし算やひき算の仕方を理解し、筆算でできる。
- ・既習事項を活用して3位数や4位数のたし算やひき算の仕方を考える力を身に付ける。
- ・見積もりをして計算したり、計算の確かめをしたり、計算を生活や学習に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3けたの数のたし算	・3位数のたし算の筆算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習のたし算の仕方を基に、3位数のたし算の仕方を考え、表現し、説明できる。	・既習のたし算やひき算の仕方を生かして、計算の仕方を考えるとともに、生活や学習で活用しようとしている。
3けたの数のひき算	・3位数のひき算の筆算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習のひき算の仕方を基に、3位数のひき算の仕方を考え、表現し、説明できる。	
大きい数の筆算	・4位数のたし算やひき算の筆算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習のたし算やひき算の仕方を基に、4位数のひき算の仕方を考え、表現し、説明できる。	

5. 長いものの長さのはかり方と表し方

★実施時期：6月中旬～下旬

★指導時間数：7時間

【学習指導要領】

【C 測定】

(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さの単位(キロメートル(km))及び重さの単位(グラム(g), キログラム(kg))について知り、測定の意味を理解すること。

(イ) 長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

・巻尺の仕組みや長さの単位(キロメートルkm)を理解し、目的に応じて単位や計器を選択し、測定したり表したりできるとともに、道のりと距離の意味と求め方を理解し、求めることができる。

・長さの単位mm, cm, m, kmの関係を考え、統合的に捉える力を身に付ける。

・身の回りの長さ(道のり、距離)に関心を持ち、測定し、kmやmを用いて表そうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
長いものの長さのはかり方	・巻尺の仕組みと測定の仕方が分かり、長さの見当を付けてから測定できる。(知識・技能)	・見当を付けたり、目的に応じて計器や単位を選択し、手際のよい測定の仕方を考え、工夫している。	・長さの見当を付け、手際のよい測定をしようとしている。
長い長さのたんい	・道のりや距離の意味と求め方が分かり、求めることができ、単位kmやmを用いて表すことができる。(知識・技能)	・道のりや距離の求め方を考え、求め、それをkmやmを用いて表し、説明できる。	・身の回りの道のりや距離に関心を持ち、生活や学習の中でkmやmを用いて表そうとしている。

6. 暗算

★実施時期:6月下旬

★指導時間数:3時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(2)加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ)加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の關係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、計算の見積もりについても触れるものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

・2位数どうしのたし算とひき算の暗算の仕方を理解し、暗算ができる。

・既習事項を活用して暗算の仕方を考える力を身に付ける。

・暗算を生活や学習に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
暗算	・2位数どうしのたし算とひき算の暗算の仕方が分かり、暗算ができる。(知識・技能)	・2位数どうしのたし算とひき算の暗算の仕方を工夫して考え、計算でき、説明できる。	・たし算やひき算の暗算を生活や学習に生かそうとしている。

7. あまりのあるわり算

★実施時期：7月上旬～中旬

★指導時間数：7時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

(エ) 除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

・余りのあるわり算の意味と立式、計算の仕方、わる数と余りの大きさの関係、 $(\text{わる数}) \times (\text{答え}) + (\text{あまり}) = (\text{わられる数})$ の関係が分かるとともに、答えの確かめができる。

・計算の仕方を考え、 $(\text{わる数}) \times (\text{答え}) + (\text{あまり}) = (\text{わられる数})$ の関係を活用して計算の確かめをする力を身に付けるとともに、計算を生活や学習に生かす力を身に付ける。

・既習のわり算の計算の仕方を基にして、計算の仕方を考えるとともに、計算の確かめをしようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
あ ま り の あ る わ り 算	・余りのあるわり算の仕方、余りの意味、余りとわる数の大きさの関係が分かる。(知識) ・余りのあるわり算の計算ができ、計算の確かめができる。(技能)	・既習のわり算の仕方を基にして、余りのあるわり算の仕方を考え、計算し、説明できる。	・既習のわり算を基にして、計算の仕方を考え、確かめをして正確に計算しようとするとともに、余りが出たときにどうするか考えて答えを出そうとしている。
あ ま り を 考 え る 問 題	・問題の求答事項に応じた、わり算のあまりの処理の仕方が分かる。(知識)	・問題の場面に応じて、余りの処理の仕方を考え、解決し、説明できる。	

8. 大きい数のしくみ

★実施時期：9月上旬～中旬

★指導時間数：10時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 万の単位について知ること。

(イ) 10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさの数及びそれらの表し方について知ること。

(ウ) 数の相対的な大きさについて理解を深めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(1)については、1億についても取り扱うものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・1億までの数の読み方、書き方、十進数としての数の構成、順序、系列、大小を等号や不等号を用いた表し方や、整数についての10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさの数の求め方と数の相対的な大きさを理解し、十進位取り記数法の理解を深めることができる。
- ・数のまとまりに目を付け、1億までの数の表し方や比べ方を考える力を身に付け、大きな数を生活や学習に活用する。
- ・大きな数に関心をもち、生活や学習の中で活用しようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数の表し方	・万の位の数の位取り、読み方、書き方、数直線の意味と数の表し方、数の大小や相等について記号($<$, $=$, $>$)を用いた表し方が分かる。(知識) ・万の位の数を讀んだり書いたりでき、大小や相等を記号を用いて表すことができる。(技能) ・一億(100000000)の大きさと表し方が分かる。(知識)	・既習の数の仕組みを基に、大きな数の仕組みや表し方を考え、説明できる。	・大きな数に関心をもち、生活や学習の中で用いようとしている。
10倍した数と10でわった数	・整数の10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさ数の求め方が分かり、求めることができる。(知識・技能)	・整数についての10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさの数の求め方や相互の関係を考え、説明できる。	・生活や学習の中で、整数の10倍、100倍、1000倍、 $1/10$ の大きさの数を生かそうとしている。

9. かけ算の筆算（1）

★実施時期：9月下旬～10月上旬

★指導時間数：11時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算について理解すること。

(イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

(ウ) 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、計算の結果の見積もりについても触れるものとする。(3)のアの(ウ)については、交換法則、結合法則、分配法則を取り扱うものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・(2, 3位数) $\times$ (1位数) のかけ算の仕方を理解し、筆算でできる。
- ・既習事項を活用して、(2, 3位数) $\times$ (1位数) のかけ算の仕方を考える力を身に付ける。
- ・既習のかけ算の仕方を基にして、(2, 3位数) $\times$ (1位数) のかけ算の仕方を考えようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
何十・何百のかけ算	・何十や何百に1位数をかけるかけ算の意味、立式、計算の仕方分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、何十や何百に1位数をかけるかけ算の仕方を考え、計算し、説明できる。	・既習事項を基にして、何十や何百に1位数をかけるかけ算、(2位数) $\times$ (1位数) や(3位数) $\times$ (1位数) の計算の仕方を考えようとしている。
2けたの数に1けたの数をかける計算	・(2位数) $\times$ (1位数) の計算の仕方と筆算の仕方が分かり、筆算ができる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、(2位数) $\times$ (1位数) の計算の仕方を考え、計算し、説明できる。	

3 けた の 数 に 1 けた の 数 を か け る 計 算	・(3位数)×(1位数)の計算の仕方と筆算の仕方が分かり、筆算ができる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、(3位数)×(1位数)の計算の仕方を考え、計算し、説明できる。	
---	---	--	--

10. 大きい数のわり算，分数とわり算

★実施時期：10月中旬

★指導時間数：4時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(4)除法に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(オ)簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し，計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(イ)数量の関係に着目し，計算を日常生活に生かすこと。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして，目標と指導内容，学習活動に応じて工夫する。

【単元目標】

・簡単な場合において，除数が1位数で商が2位数のわり算や，分数とわり算の関係を理解して，計算ができる。

・既習事項を活用して，除数が1位数で商が2位数のわり算の仕方や，問題の場面における分数の意味を考える力を身に付ける。

・既習のわり算の仕方を基にして，除数が1位数で商が2位数のわり算の仕方を考えようとしたり，分数とわり算の関係を考えようとしたりする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大きい数のわり算	・簡単な場合の(2位数)÷(1位数)の計算の仕方が分かり，計算ができる。(知識・技能)	・簡単な場合の(2位数)÷(1位数)の計算の仕方を考え，計算し，説明できる。	・既習事項を基にして，簡単な場合の(2位数)÷(1位数)の計算の仕方を考えようとしている。
分数とわり算	・分数で表された数をわり算を使って求めることができる。(技能) ・もとの大きさが違うものを等分した数についてわかる。(知識)	・分数で表された数をわり算を使って求める仕方を考えることができる。 ・もとの大きさが違うときは同じ分数でも，違った大きさを表していることを考えることができる。	・分数とわり算の関係やもとの大きさと分数の関係を考えようとしている。

11. 円と球

★実施時期:10月下旬

★指導時間数:8時間

【学習指導要領】

【B 図形】

(1)図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ)円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

【内容の取扱い】内容の「B図形」の(1)の基本的な図形については、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに、三角形や円などを基にして模様をかくなどの具体的な活動を通して、図形のもつ美しさに関心をもたせるよう配慮するものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・円の意味、性質、円の中心、半径、直径、半径と直径の関係、球の意味や性質、球の切り口が円になること、球の中心などを理解するとともに、コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったりできる。
- ・円や球の性質を調べたり、それを基に身の回りから円や球の形を見つけたりする力を身に付ける。
- ・円や球を身の回りから探したり、コンパスを用いて円や模様をかいたり、長さを写し取ったりする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
円	・円の意味、性質、円の中心、半径、直径、半径と直径の関係が分かる。 ・（知識） ・コンパスを用いた円のかき方や長さの写し取り方が分かり、できる。（知識・技能）	・円の中心の見つけ方、半径と直径の関係を調べ、円のかき方を考え、説明できる。	・円や球に関心をもち、身の回りから円のものや球のものを探したり、生活や学習の中で活用したりしようとしている。
球	・球の意味、性質、球の中心、半径、直径、球の切り口が円になることが分かる。 ・（知識）	・円と球を比べて、球の性質を調べ、説明できる。	

12. 小数

★実施時期：11月上旬～中旬

★指導時間数：12時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(5) 小数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。また、小数の表し方及び1/10の位について知ること。

(イ) 1/10の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・小数の意味と表し方、用語「小数」「小数点」「整数」「位取り(1/10の位、小数第1位)」、小数の構成や相対的な大きさ、大小比較を理解するとともに、小数のたし算やひき算の仕方を理解し計算ができる。
- ・小数の表し方や大小比較の仕方、小数のたし算やひき算の仕方を考える力を身に付ける。
- ・小数で表すよさが分かり、生活や学習の中で、小数で表したり計算したりしようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1より小さい数の表し方・しくみ	・小数の意味や表し方が分かり、端数部分の大きさを小数で表すことができる。(知識・技能) ・小数が整数と同じように十進数の仕組みであることや、10倍や1/10にした大きさが分かる。(知識) ・数直線などに表して、小数の相等や大小の比べ方が分かり、大小比較ができる。(知識・技能)	・端数部分の大きさの表し方を考え、0.1を単位にして表せばよいことに気づき、表し、説明できる。 ・小数の10倍や1/10にした大きさの求め方を考え、求め、説明できる。 ・小数の大小比較の仕方を考え、比較し、説明できる。	・小数で表すよさが分かり、生活や学習の中で小数を積極的に使おうとしている。
小数のたし算とひき算	・小数のたし算やひき算の仕方が分かり、筆算でできる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、小数のたし算やひき算の仕方を考え、計算し、説明できる。	・小数のたし算やひき算に関心をもち、進んで計算に取り組み、生活や学習の中で用いようとしている。
小数のいろいろな見方	・小数のいろいろな見方や表し方が分かり、表すことができる。(知識・技能)	・他者の考え方を読み取り、図や式や数直線で表したり、考えたりできる。	・小数の表し方に関心をもち、いろいろな見方で表そうとしている。

13. 重さのたんいとはかり方

★実施時期:11月中旬～下旬

★指導時間数:9時間

【学習指導要領】

【C 測定】

(1)量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)長さの単位(キロメートル(km))及び重さの単位(グラム(g), キログラム(kg))について知り、測定の意味を理解すること。

(イ)長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。

【内容の取扱い】内容の「C測定」の(1)については、重さの単位トン(t)について触れるとともに、接頭語(キロ(k)やミリ(m))についても触れるものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・重さの意味や単位(グラムg, キログラムkg, ミリグラムmg, トンt)を理解し、はかりの仕組みを理解し、重さを測定することができ、重さのたし算とひき算を理解し、計算できる。また、重さ、長さ、かさの単位の関係を理解できる。
- ・重さの単位の関係を考え、統合的に捉える力を身に付ける。
- ・身の回りのものの重さに関心を持ち、生活や学習の中で重さを量ったり、表したりする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重さのくらべ方	・重さの表し方、単位とその関係が分かり、表すことができる。(知識・技能)	・身の回りのものの重さを表す仕方を考え、比較し、説明できる。	・身の回りのものの重さや長さ、かさの単位に関心を持ち、生活や学習の中で測定したり表したり、重さのたし算やひき算を生かそうとしている。
はかりの使い方	・はかりの仕組みと重さの量り方が分かり、測定できる。(知識・技能) ・重さもたし算やひき算ができることが分かり、計算できる。(知識・技能) ・重さや長さ、かさの単位の関係が分かる。(知識) ・キロk, ミリmの意味と、単位が10倍、100倍、1000倍の関係になっていることが分かる。(知識)	・長さの学習を基にして、重さの量り方や表し方を考え、量り、説明できる。 ・重さのたし算やひき算の仕方を考え、計算し、説明できる。 ・重さ、長さやかさの単位を表にして、それらの関係を考え、説明できる。	

14. 分数

★実施時期：12月上旬～中旬

★指導時間数：10時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。

(イ) 分数が単位分数の幾つかかで表すことができることを知ること。

(ウ) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(5)及び(6)については、小数の0.1と分数の $\frac{1}{10}$ などを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・分数の意味と表し方、分数を数直線上に表し、分数の構成や大小関係について理解するとともに、分数もたし算やひき算ができることを理解し、同分母分数の真分数どうしのたし算やひき算ができる。
- ・分数の表し方や分数の構成、大小関係、たし算やひき算の仕方について考える力を身に付ける。
- ・分数に関心を持ち、生活や学習の中で分数を用いたり、進んで計算に取り組んだりする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
等分した長さやかさの表し方	・分数の意味と表し方、用語「分子」「分母」、単位分数を基にした分数の大きさが分かり、分数で表すことができる。(知識・技能) ・分数の相等や大小の比べ方を理解し、大小比較ができる。(知識・技能)	・等分してできる大きさや端数部分の大きさを表す仕方を考え、分数で表せることに気付き、説明できる。 ・数直線を手掛かりに、分数の大小の比べ方を考え、大小を比べ、説明できる。	・等分した大きさや端数部分の大きさを分数で表したり、大小を比較したり、生活や学習の中で分数を使ったりしようとしている。
分数のしくみとたし算・ひき算	・分数もたし算やひき算ができること、同分母の真分数どうしのたし算やひき算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・同分母どうしのたし算やひき算の仕方を考え、計算し、説明できる。	・分数のたし算とひき算の仕方に関心を持ち、生活や学習の中で活用しようとしている。

15. □を使った式

★実施時期：1月中旬

★指導時間数：4時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(7)数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の關係に着目し、数量の關係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・数量の關係を図や式に表せ、未知の数を□として關係を式で表し、□にあてはまる数を求めて問題が解決できる。
- ・数量の關係を図や式を用いて表したり、未知の数を□として式で表して問題を解決したりする力を身に付ける。
- ・数量の關係を図や式に表したり、未知の数を□で表したりして、問題解決に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
□を使った式	・図を用いて数量の關係の調べ方が分かり、図にかいて読み取ることができる。(知識・技能) ・未知の数を□を使って式に表す仕方や、あてはまる数の求め方が分かり、実際にできる。(知識・技能)	・数量の關係を図にかいて考え、式に書いたり、説明したりできる。 ・数量の關係を□を用いた式に書いて考え、あてはまる数を求め、説明できる。	・数量の關係を図にかいたり、□を用いた式に書いたりして調べ、問題解決に生かそうとしている。

16. かけ算の筆算（2）

★実施時期：1月中旬～2月上旬

★指導時間数：10時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算について理解すること。

(イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

(ウ) 乗法に関して成り立つ性質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

【内容の取扱い】内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、計算の結果の見積もりについても触れるものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

・(1位数、2位数)×(何十)、(2位数)×(2位数)、(3位数)×(2位数)のかけ算の仕方と筆算の仕方が分かり、筆算でできるようにするとともに、問題解決に活用できる。

・既習事項を活用して(2位数)×(2位数)などの計算の仕方を考え、問題解決に活用する力を身に付ける。

・既習事項を基にして計算の仕方を考え、その計算を生活や学習の中で生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
何十をかける計算	・(1位数、2位数)×(何十)のかけ算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、(1位数、2位数)×(何十)のかけ算の仕方を考え、計算し、説明できる。	・既習事項を基にして、計算の仕方を考え、生活や学習の中で生かそうとしている。
2けたの数をかける計算	・(2位数)×(2位数)のかけ算の仕方と筆算の仕方が分かり、筆算でできる。(知識・技能) ・(3位数)×(2位数)のかけ算の仕方と筆算の仕方が分かり、筆算でできる。(知識・技能) ・末位に0のあるかけ算の仕方が分かり、計算できる。(知識・技能)	・既習事項を基にして、(2位数)×(2位数)のかけ算の仕方と筆算の仕方を考え、計算し、説明できる。 ・前時までの学習を基にして、(3位数)×(2位数)のかけ算の仕方と筆算の仕方を考え、計算し、説明できる。	
暗算	・簡単な場合の(2位数)×(1位数)の暗算の仕方が分かり、暗算ができる。(知識・技能)	・簡単な場合の(2位数)×(1位数)の暗算の仕方を工夫し、暗算をし、説明できる。	・簡単な場合の(2位数)×(1位数)の暗算に関心をもち、生活や学習の中で活用しようとしている。

◆倍の計算

★実施時期：2月中旬

★指導時間数：3時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(3)乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ)乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

(4)除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ)除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ)数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

(7)数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・基準量や倍の意味を理解し、答えを求めることができる。
- ・既習事項を活用して演算決定し数量の関係を考える力を身に付ける。
- ・2つの数量の関係を考えたり、学習に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
倍の計算	・何倍かにあたる数を求めるときに、かけ算を用いることができることを理解し、求めることができる。(知識・技能) ・もとにする大きさの何倍かを求めるときに、わり算を用いることができることを理解し、求めることができる。(知識・技能) ・もとにする量を求めるときに、□を用いたかけ算の式に表して、わり算を使って求めることができる。(技能)	・もとにする量や数量の関係から、倍の意味や計算の仕方を考え、説明できる。	・もとにする量や倍の計算を学習に生かそうとしている。

17. 三角形と角

★実施時期:2月下旬～3月上旬

★指導時間数:8時間

【学習指導要領】

【B 図形】

(1)図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。

(イ)基本的な図形と関連して角について知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

【内容の取扱い】内容の「B図形」の(1)の基本的図形については、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに、三角形や円などを基にして模様をかくなどの具体的な活動を通して、図形のもつ美しさに関心をもたせるように配慮するものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・二等辺三角形や正三角形の意味と性質、定規とコンパスを使った作図の仕方を理解し、数き詰めて模様づくりをして図形の感覚を豊かにするとともに、三角形と関連させて角の意味を理解し、大小比較ができる。
- ・二等辺三角形や正三角形の性質を調べたり、定規とコンパスを使った作図の仕方を考えたり、角の大小比較の仕方を考えたりする力を身に付ける。
- ・三角形や角に関心を持ち、進んで見つけたり、調べたりしようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
二等辺三角形と正三角形	・二等辺三角形や正三角形の意味と性質、定規とコンパスを使った作図の仕方が分かり、弁別や作図ができる。(知識・技能) ・三角形を使った模様づくりの仕方が分かり、できる。(知識・技能)	・観点をきめて三角形を分類し、二等辺三角形や正三角形に気づき、説明できる。 ・二等辺三角形(正三角形)のかき方を考え、かき、説明できる。	・三角形に関心を持ち、見つけたり、かいたり、模様を作ったりしようとしている。
角	・角の意味、頂点や辺の意味が分かる。(知識) ・二等辺三角形や正三角形の角の大きさが分かり、角の大小を比べることができる。(知識・技能)	・二等辺三角形や正三角形の角の大きさや大小の比べ方を考え、比べ、説明できる。	・角について関心を持ち、生活や学習の中で、角の大きさを調べたり、大小比較をしたりしようとしている。

18. ぼうグラフと表

★実施時期：3月上旬～中旬

★指導時間数：10時間

【学習指導要領】

【D データの活用】

(1)データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)日時、観点や場所の観点などからデータを分類・整理し、表に表したり読んだりすること。

(イ)棒グラフの特徴やその用い方を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて、考察して見いだしたことを表現すること。

【内容の取扱い】内容の「Dデータの活用」の(1)のアの(イ)については、最小目盛りが2, 5又は20, 50などの棒グラフや、複数の棒グラフを組み合わせたグラフなどにも触れるものとする。

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・資料の分類・整理の仕方を理解し、簡単な二次元表に表したり読み取ったりできるとともに、棒グラフの読み方やかき方を理解し、目的に応じて用いることができる。
- ・身の回りのことについて、表や棒グラフに表して特徴や変化を調べ、見つけたことを表現する力を身に付ける。
- ・身の回りの表や棒グラフに関心をもち、生活や学習に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
整理の仕方とぼうグラフ・めもり	・資料を分類・整理の仕方を理解し、整理できる。(知識・技能) ・棒グラフの読み方やかき方が分かり、目盛りの付け方を工夫した効果的な棒グラフをかいたり、読んだりできる。(知識・技能) ・複数の棒グラフを比べて特徴を読み取ったりできる。(知識・技能)	・資料を分類・整理する方法を考えることができる。 ・棒グラフからどのようなことが分かるか考えたり、効果的な棒グラフのかき方を工夫したりしている。 ・複数の棒グラフをかき、それを比べて、どのようなことが言えるか考え、説明できる。	・身の回りにある棒グラフや二次元表に関心をもち、進んで生活や学習に活用しようとしている。
表のくふう	・資料の分類・整理の仕方や簡単な二次元表の読み方、かき方が分かり、表をかいたり読んだりできる。(知識・技能) ・合計欄などを活用して、落ちや重なりがないか確かめることができる。(技能)	・表からどのようなことが分かるか考え、説明できる。 ・二次元表のかき方を考え、表現し、説明できる。	

◆そろばん

★実施時期：3月中旬

★指導時間数：2時間

【学習指導要領】

【A 数と計算】

(8)そろばんを用いた数の表し方と計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)そろばんによる数の表し方について知ること。

(イ)簡単な加法及び減法の計算の仕方について知り、計算すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)そろばんの仕組みに着目し、大きな数や小数の計算の仕方を考えること。

【内容の取扱い】特記事項なし

【数学的活動】

数学的活動のページを参考にして、目標と指導内容、学習活動に応じて工夫する。

【単元の目標】

- ・そろばんの仕組みと数の表し方が分かるとともに、そろばんを使って、簡単なたし算(繰り上がりあり)やその逆のひき算(繰り下がりあり)ができるようにする。
- ・そろばんの仕組みを基にして、大きな数や小数のたし算やひき算の仕方を考える力を身に付ける。
- ・そろばんに関心をもち、生活や学習の中で、簡単なたし算とひき算を使おうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
そろばんの数の表し方	・そろばんの仕組みと数の表し方が分かり、そろばんに整数を表すことができる。(知識・技能)	・そろばんの仕組みを知り、数の入れ方を考え、表すことができ、説明できる。	・そろばんやその計算に関心をもち、数を表したり、たし算やひき算をしたりして生活や学習の中で使おうとしている。
そろばんの計算	・そろばんによる簡単なたし算とひき算の仕方が分かり、そろばんで計算できる。(知識・技能)	・そろばんの数の入れ方と払い方を基にして、たし算とひき算の仕方を考え、計算し、説明できる。	